

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	環境企画課	
施策	20	地球環境の保全と自然との共生	評価 責任者	千葉 信幸	内線 8410
小施策	20-4	地球温暖化対策の推進	評価 シート 作成者	菅原 真理	内線 8411

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市域における温室効果ガス排出量は、東日本大震災後の24年度をピークに減少傾向にあるが、地球温暖化対策を進め、更なる削減が必要である。地球温暖化対策実行計画の目標年度である42年度における温室効果ガス排出量の31%削減(平成25年度比)に向け、地域経済の好循環にもつながる再生可能エネルギーの普及拡大やエネルギーの地産地消を促進するとともに、市民の省エネ行動の啓発などを効果的に進めていく必要がある。	温室効果ガスの排出削減のため、太陽光、風力、木質バイオマスなど、再生可能エネルギーの普及促進や、省エネ機器の導入などによるエネルギーの効率的な利用を促進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民・事業者	温室効果ガス排出量を抑制する。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 温室効果ガスの総排出量		単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析
当初値(H25)	2,492	千t-co2	↓		
R1目標値	1,984			・「盛岡市住宅用太陽光発電システム等設置費補助金」により、138件の太陽光発電システム等が設置された。	・太陽光発電システムだけでなく、蓄電池システムやホームエネルギーマネジメントシステムも補助対象としている。
R6目標値	1,685				
				問題点	問題の要因分析
				・補助事業の財源である「地球温暖化対策実行計画推進基金」の残高が減少しており、事業の継続が難しくなっている。	・支出(事業費)に比べ、収入(積立額)が少ない。

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
<p>★ 改修を予定している動物公園などへの再生可能エネルギー導入に向けて協議を進める。</p> <p>☆1 基金の残高減少を抑制し、有効に活用するため、太陽光発電システム等補助金などの既存事業を見直す。</p>	